

第2章 多摩都市モノレール

第1節 第14回わいわい会で対応

多摩センター(16:50)～松が谷(16:35)～大塚・帝京大学(16:25)～
中央大学・明星大学～多摩動物公園(15:45)～程久保～高幡不動(15:05)～
万願寺～甲州街道～柴崎体育館～立川南～立川北～高松～立飛(10:55)～泉体育館～
砂川七番～玉川上水(10:20)～桜街道(10:00)～上北台(9:50)

第14回目のわいわい会(高校同窓歩こう会)は、平成16年7月17日(金)真夏の日差しの中、上北台駅(かみきた)＝多摩センター駅間16.0Kmに挑戦する。朝5時前に起床し、愛犬セブンの散歩をさせる。9時30分、上北台駅集合のため、7時過ぎ自宅を出る。多摩センター駅で記念写真の撮影後、400円の乗車券を購入し多摩モノレール線に乗り込む。今まで意識していなかったが、この電車はレールをはさみこんで進むタイプ(リニアモーターカー)であり、つり電車のタイプではなかった。拝島線踏破の際、この鉄道を利用したので二回目となった。それで、多少余裕をもって、電車の窓から見る風景を観察することができた。実は中央線踏破の際、日野と立川の間でこのモノレール線と初めて対面していた。面白そうな電車で興味津々で傍観した記憶が昨日のように思い出される。高幡不動駅と新選組イベント会場のある万願寺駅の間に浅川があった。また、甲州街道駅と柴崎体育館駅の間にも多摩川があった。今回の障害は二つ感じた。ひとつは両川をどう渡るかと、もうひとつは中央大学明星大学の森をどう越えるかであった。これが、後で歩いて意外に簡単にクリアできた。取り越し苦労というものであった。

上北台駅には、9時頃到着する。駅前には多数の墓地があった。予想通り誰も来ていなかった。わいわい会の主幹事である関係上、不測の事態を想定し、待ち合わせ時間の30分前を目途に到着を心がけている。昨日、溝縁さんと片岡さんから欠席の電話があった。それから1週間位前、谷本さんからも丁重なる欠席のはがきをもらう。真夏のウォーキングで人数の少ないことは覚悟していた。9時10分頃、岡崎さんから、現在立川北駅にいるとの連絡があり。それから、まもなくして、桑島さん、鶴巻さんが現れる。本日来られる可能のある福家さんに連絡するが、家事都合により欠席との回答を得る。9時30分を少し過ぎたあたりに岡崎さん、坂本さんがお見えになる。後参加者がいるかもしれないので、ひと電車だけ待つことにする。結局、何方も来ず。



※多摩センター駅、上北台駅



※桜街道駅、玉川上水駅

我々5人は、上北台駅を9時50分出発し、本日の終着駅の多摩センター駅を目指す。本日のつたい歩きは、モノレール線のため、線路と踏破駅が常に頭上にあり歩きやすかった。また、視界を遮る障害物が少なく目標とする駅は見やすかった。桜街道には10時5分到着。拝島線踏破の際通過した玉川上水駅には、10時20分に到着。西武鉄道を越えるのにエスカレーターで20m位上り下りする。砂川七番駅、泉体育館駅と道路の真中を走るモノレール線に沿って歩く。泉体育館駅を過ぎた辺りから、目指す立飛駅は私達が歩いていた道路を急カーブで右折する方向にあった。桑島さんと鶴巻さんがこのカーブを気にしないで進んでいたため、坂本さんが大声を上げて「行き過ぎ」と注意喚起する。それで、20m戻り、モノレール線の方に進路を変更する。でも、この戻りは無駄な動きとなる。私道のため侵入できず。行過ぎた方向に進み立飛駅を目指す。右手200m位先に立飛駅(10時55分)があった。その後前進したが、テニス場、ゴルフ場、住宅展示場で行き止まりとなる。それで、再度引き換えし、一番原点の道路まで戻る。この辺りは新立川航空機会社の敷地の関係から、つたい歩きはできない状況であった。それで、高松駅と立川北駅への踏破は、モノレール線とかなり離れて進むことになる。このため、高松駅と立川北駅はカメラに収めることができず。

歩きながら、岡崎さんと日本の社会問題のうち少子高齢化と教育問題について語り合

った。次のような論点で岡崎さんと大筋一致した。坂本さんもこの論点に賛同して頂いた。

- ① 国会で保険料未納問題等の枝葉末節の議論をするのではなく、激減が予想される人口問題と低下しつつある教育水準を真剣に議論すべき。
- ② 少子化への対応を解決すれば年金問題の糸口がつかめる。
- ③ 国全体が子供を育てる環境態勢となる必要がある。
- ④ ゆとり教育では日本全体が地盤沈下する。
- ⑤ 世界に通用する教育が大切である。
- ⑥



※砂川七番駅、泉体育館駅



※多摩モノレール、鴨と鯉

大丸デパートでトイレ休憩をする。JR立川駅前では10人乗り位の小型バスから乗客が降りている場面に出くわす。JR線を潜り抜ける地下通路を通り、JR立川駅の南口に出る。この駅からモノレール線を左手に200m位離れた道を進む。その関係で立川南駅もカメラに収めることができず。私が朝見た多摩川越えの状況をメンバーに発言したため、全員がこれから向える川越対策に注意深くなる。柴崎体育館近郊に小川があり、鯉と鴨が涼しそうに泳いでいた。鴨はこちらを見て、餌を期待している感じであった。まもなく行くと多摩川に出くわす。驚いたことに、道路の真中にモノレール線があった。朝モノレールの窓からはこの道路事情がわからなかった。「灯台下暗し」がぴったりあてはまる場面であった。「鉄道と比べ、モノレール線は道路に融合できる」という新し

い発見をした。朝は橋が見えず、橋を渡るのにかなり遠回りを余儀なくさた。しかし、それがなく助かった。万願寺駅の近郊で昼食時間（12時40分）になったので、食事処「ひょうたん」で休憩をする。生ビールがとても美味しかった。



※ひょうたん



※新選組イベント会場

14時、本年NHK大河ドラマの「新選組フェスタ In 日野」の会場に向かう。四方200m位の敷地を利用して、イベント会場が設立されていた。入場に500円要する。英雄土方歳三のビデオが放映されていた。「桑名藩と新選組」という説明会がイベント会場であった。10月まで日野市が運営しているとのこと。入口先に記念写真撮影会場があったので、羽織と刀を借りて係りの方に写真を撮ってもらう。岡崎さんは家事都合により、ここでアップする。14時半、イベント会場を出るや否やトケイソウという珍しい植物を、鶴巻さんと桑島さんから教わる。時計の針のような3m位丈の植物だった。

ブルーベリー、栗それからざくろ、桃、梨といった木が農園にあった。昨年9月わいわい会で踏破した高幡不動駅を15時5分通過する。五重の塔が300m先に見える。茶色っぽいレンガ造りの立派な日野市立高幡図書館があった。この近郊で5分程度休息し、今後の展開を読む。後、多摩センター駅まで5.5kmである。17時位に到達できると予想。程久保川に沿った遊歩道があり、程久保駅、多摩動物公園と目指す。浅川合流点から2.5kmのところ程久保駅があった。高幡不動駅から多摩動物公園までモノレール線

に併走して京王線があった。程久保川に沿って、いくつかの鳥の写真があった。その中に、関東鉄道の田で見かけた黒と白の模様の鳥がいた。セグロセキレイとあった。多摩動物公園には15時45分到着。多摩動物園を見た時、十数年前家族でよく来た懐かしい記憶が昨日のように思い出された。当時このような便利な鉄道がなかったので、家内の運転によるアクセスが余儀なくされた。その関係で渋滞に巻き込まれる大変な日もあった。1時間に1本程度ペットボトルを要する環境から、いつの間にかうす曇になり歩き易い環境となっていた。



※高幡不動駅、程久保駅



※中央大学・明星大学駅、松が谷駅

いよいよ最後の難関である山越えである。幹線道路を回って中央大学明星大学を通り抜けるコースも考えた。しかし、何人かの通行人に近道情報を聞き、直接中央大学を通り抜けて進む裏道コースにした。中央大学は坂本さんの母校とのことで、感慨無量のようなであった。16時15分中央大学駅に到着する。大塚帝京大学には16時25分着く。大栗川を越えると、10分位行った先に松が谷駅があった。松が谷駅は大通りに面しており、その先に多摩センター駅があった。高層ビルが松が谷駅から前方に見えて来た。この駅から多摩センター駅までは花道であった。多摩センター駅には16時50分到着。トイレで汗だくだくのシャツの着替えをして、17時6分発の電車(京王)で打ち上げ会場新宿駅を目指す。新宿まで330円だった。新百合ヶ丘駅=小田急多摩センター駅の

230 円に比べ割安感を感じた。

新宿ライオンには 18 時到着。生ビールが最高に美味しかった。宇賀神さんが 18 時 40 分頃駆けつけてくれる。これで、本日のわいわい会参加メンバーは延べ 6 名となった。その後、ムーンに移動してカラオケを楽しむ。22 時 30 分この店を出る。自宅には深夜の 0 時 10 分であった。愛犬セブンが迎えに来てくれる。本日の万歩計は 49,578 歩だった。充実した一日となった。今回も坂本先輩から丁重なる熱きウォーキングのお礼状を頂戴した。

第 2 節 リベンジ (2023 年 4 月 3 日 (月) 晴れ)

埼玉高速鉄道を乗り鉄で PDF 読本に掲載する画像を撮影後、JR 線を活用し、多摩都市モノレールにリベンジする。なお、上北台駅から立飛駅までの区間は乗り鉄で画像を整える。時間の関係から多摩都市モノレールの歩き鉄区間は、立飛駅から万願寺駅の 5.7 km に限定する。モノレールは駅舎に沿った道筋にあり、これまでの鉄道つたい歩きで本日の区間が最もやさしかったような気がする。特筆すべき事項は次の通り。

○立川北駅から上北台駅まで移動し、ウォーキング開始。



※立川北駅

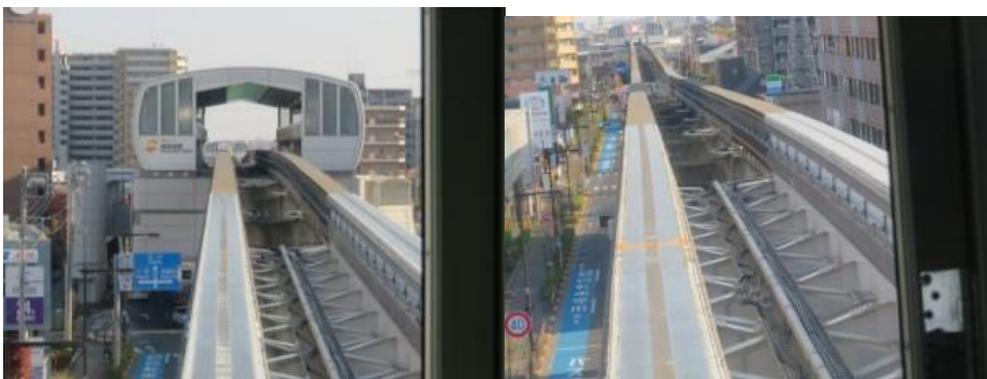




※上北台駅

○多摩都市モノレールは、2004年大河ドラマ「新選組」の放映のタイミングに準拠し、第14回わいわい会（高松一高歩き会）で2004年7月14日（土）踏破した路線である。19年前6人で歩いた懐かしい思い出を噛みしめながら歩く。特に、故岡崎先輩と日本の少子高齢化やゆとり教育などについて語り会ったことが懐かしくなった。

○先頭車両からの線路風景は最高であった。



※桜街道駅、玉川上水駅に向け出発

○高いアングルから沿線の風景を堪能できた。



○立飛駅と高松駅の間に車庫に繋がる路線があった。



○立川北駅と立川南駅との間に JR 立川駅があった。



○柴崎体育館駅と甲州街道駅の間に、万歩計で776歩ある立日橋（多摩川）が横たわっていた。



○万願寺駅は土方歳三の生誕地である。



○4 両編成の複線。

○これまで、5つのモノレール線を歩き、「跨座式」と「懸垂式」があることを次表の通り学習させて頂く。

路線	営業キロ	方式
東京モノレール	17.8	跨座式
多摩都市モノレール	16.0	跨座式
千葉都市モノレール	15.2	懸垂式
湘南モノレール	6.6	懸垂式
沖縄都市モノレール	17.0	跨座式

※ユーカリが丘モノレール(5.1 km)・ディズニーモノレール(5.0 km) : 跨座式

○帰りの途は、多摩都市モノレールで多摩センター駅まで行き、そこから小田急線で。ポスターの例示を見て、営業努力の発信を強く感じた。中央林間駅界限の大阪王将で本日の疲れを癒す。





各駅舎の画像は次の通り。

(1) 立飛駅





(2) 高松駅

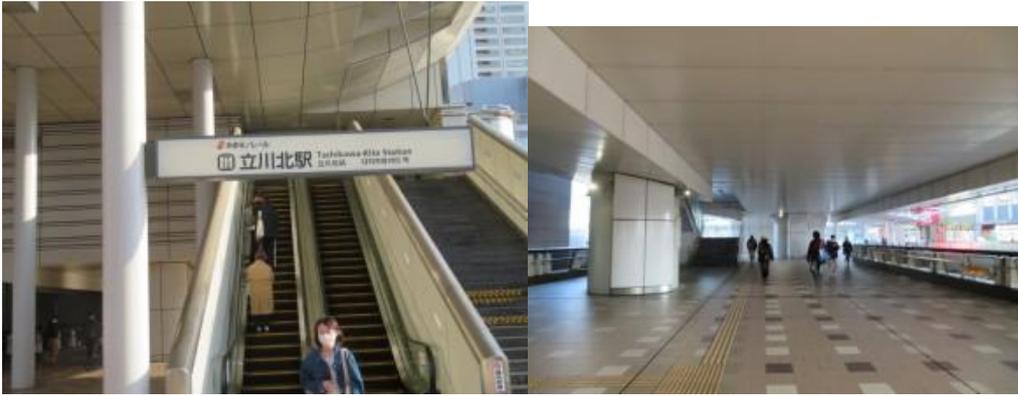


※高松駅への路、高松駅

(3) 立川北駅



※立川北駅への路



※立川北駅、立川南駅への路

(4) 立川南駅



※立川南駅

(5) 柴崎体育館駅



(6) 甲州街道駅



※甲州街道駅への路、甲州街道駅

(7) 万願寺駅



第3節 多摩都市モノレールの仕上げ

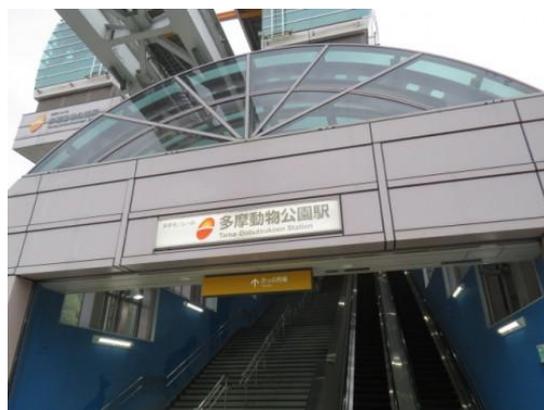
2023年4月5日（水）晴れ、2023年4月3日（月）に引き続き、多摩都市モノレールの仕上げのためリベンジする。

多摩動物公園(16:23)～中央大学・明星大学(16:56)～大塚・帝京大学(16:08)～松が谷(7:24)～多摩センター(17:44)



※モノレールで多摩動物公園まで移動

①多摩動物公園駅を16時23分出発するが、誤って高幡不動駅方面に向かっていった。バス停で高幡不動や程久保の活字を見て、うっかりして反対方向に進行しているのに気づく。15分ロスタイムとなる。多摩動物公園駅には16時38分に戻り、再出発。坂道を上る。16時46分より、万歩計で492歩ある多摩丘陵トンネルを通過する。トンネルを出た先に、モノレールの線路が見えなくなり、一瞬、頭の中が真っ白になる。ナビで検索しようとした瞬間、幹線道路と同じ高さから車両が現れる。そして、緩やかに線路が高架して行き、200m位先で通常のポジションとなる。16時56分、中央大学・明星大学に到着。坂道を下った先に引き続き大塚・帝京大学（16：08）があった。





※多摩動物公園駅



※誤って高幡不動方向に向かう、再度多摩動物公園へ





※中央大学・明星大学への路、多摩丘陵トンネル、モノレール道路の高さ



※中央大学・明星大学駅

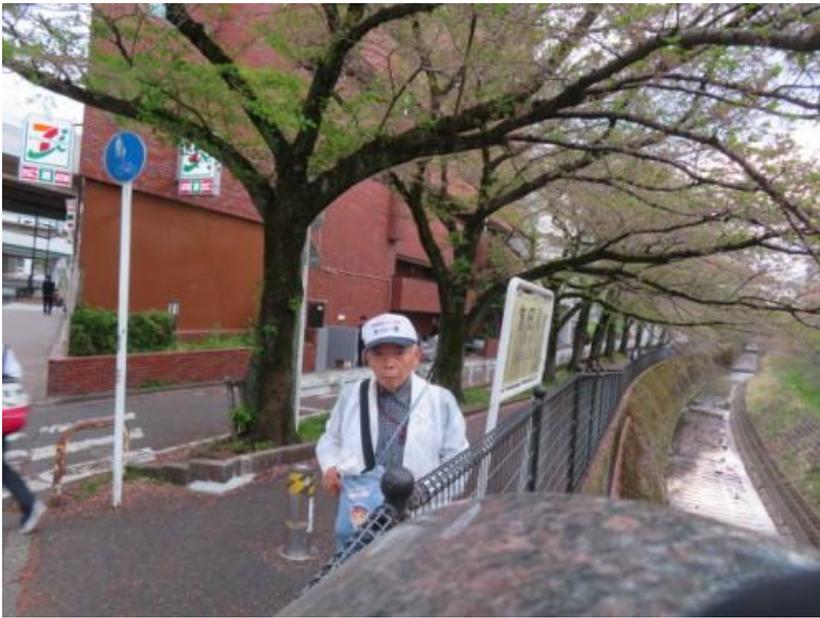


※大塚・帝京大学駅

②万歩計で69歩ある堰場橋（せきば：大栗川）を渡る。17時24分、松が谷駅（17時24分）に到着。京王相模原線や小田急多摩線の踏破の際に立ち寄った、桜並木がある乞田川（こったかわ）を跨ぐ山王橋を渡った先に京王多摩センター駅があった。そして多摩センター駅には17時44分に到着。これで、多摩都市モノレールの仕上げは完了する。同時に第50編のPDF読本（多摩都市モノレール、千葉都市モノレールなど）が執筆できる環境となり、モチベーションが上がる。



※道路の上にモノレール、松が谷駅



※多摩センター駅への路、乞田川（桜殆どなし）



※多摩センター駅

③仕上げを祝し、多摩センター駅界隈にある”はなまるうどん”に立ち寄り、故郷香川の味を堪能する。そして大回り承知で気分転換から、先日の帰宅コース（小田急線一本）を変え、京王相模原線・横浜線・小田急線を活用し自宅へ。



※はなまるうどんて故郷の味堪能！！

本日の歩きで、通算営業キロは **1万4千474km**(活動日数714日、日本の鉄道の**52.3%**、地球円周の**36.1%**)となる。